

# 牧博士論

田 中 好

八月陰沈秋耶冬、

冷風送雨礙耕農、

人間萬事亦相似、

誰辨真龍與畫龍。

工學博士牧彦七氏は、一片の詩を残して東京市土木局長の椅子を捨てた、今日突如として其の職を去るに至つたのは如何な事情があつてか判らないが、兎に角我が路政界に於ける權威者を、市政に即ち路政まで言はるゝ帝都路政界から失つたことは遺憾事だ。

東京市政に言へば常に醜悪市會議員の跋扈跳梁を思はせる、俺が連れて來た市長だ何事も俺の言ふ事を聞く筈だ。さ高言する市會議員連だから市の吏員を自分の小使のやうに取扱ふ、狡猾な吏員連は亦吾が身の榮進を圖る爲

に、市會議員を主人のやうに待遇する、恰も夫れを處世の常道の如く心得て、古くから市政の幹部を爲つてゐる者の大部は皆此道を踏まない者は無いと言ふ位だ、實際眞面目に仕事をして立身出世するよりは此手で行く方が捷徑に違いない、と言ふのは市會を背景として行政せなければならぬ市長は、勢ひ市會を構成する市會議員の鼻息を窺はなければ圓滿に市政を執行することの出来ない立場に立つので市議の曲つた不公正な注文でも時には夫れを知りつゝ聞かなければならぬ、一方市議は自分の所謂使用人を榮達させてやりたい、又榮達させてやつた者が多ければ多い程、市政に自分の權勢を張ることに爲る、言はゞお互の利益だ

から双方がぎれ合ふ事になつて来るこいふ様な譯である、

是等の關係で榮達した市吏員は職務上に關する何事に就て

も主人格の市議に相談するやうに爲る、此關係が濃厚にな

るにつれて今度は職務の執行に主人から注文が来る、そう

なるに双方の弱點が判つ

て來て茲で共謀團結して

不正事を働く、之が東京

市政を腐敗せしむる緣由

であり且つ原因だ、此情

弊を知つて居るものは、

市吏員の國家試験制度を

要求して試験に合格した

者でなければ、市吏員に

採用しない制度が必要だ

と云ふ位になつた、固より是等は自治制の精神から考へて

思むべきことではあるが、ここの實際からすれば一應の理

漫遊録

市政は腐敗してゐる。

× × ×

市長の職務管掌をやつてゐた堀切内務省都市計畫局長が

ら、牧君一つ東京市に來て

道路局の改革をやつて呉れ

ないか、と相談されたとき

氏の友人達の間には賛否兩

論あつた筈だ、市政の腐敗

を知つてゐる者は牧博士の

東京市入りを惜んだ、何が

故に惜んだか、夫れは餘り

に博士の性格が東京市政の

内部に潜在してゐる空氣と

背反してゐるからであつた、折角自分が育て上げた内務省

道路試験所を見捨て、今頃丹羽勘彦の後を襲ふやうなこ

一三三

十一年東大工科を出て臺灣の技師を勤めた時から君を愛して呉れてゐる後藤新平氏の市長時代に行けば良かったぢやないか、短命だこの評ある中村市長時代に態々行くには及ばないよ諫言した者もあつたぞうだ。

此時博士は友人に述懐して、極度に非難攻撃的の爲つてゐる東京市街路改良工事を促進するのも、男子として痛快事では無いが、帝都道路を模範的に改良しやう、之を爲し遂げたならば特に宣傳せすとも朝野有志は道路の改良に自覺するだらう、俺は夫れを爲し遂ぐれば一市吏員で満足だ。と言つたさうだ、であるから始めから自分の持してゐる直情徑行主義が、情實纏綿の市政に符合するや否やを考へてゐるなかつた、今日の事あるのは始めから豫想された事だ。

人は惜み自分は喜んで行た東京市に於て氏がどれ程路政に貢献したか、氏の性格がどれ位市會に反映して事業を執

行したかを吟味して見たい。氏は燃ゆるやうな熱誠を努力の人だ。曾て秋田縣土木課長時代に有名な話がある、船川築港を計畫した、ところが船川港の眼先きに舊藩時代から秋田の咽喉を扼してゐた土崎港がある、何れの港を改良するかと言ふ問題は常に縣會の難問題とされてゐた、が併し船川港は常に波靜かで天然の形勝を占めてゐるから之に人工を加ふるのが築港策として最も得策だ、と言ふ意見を決定し改良計畫を樹てたが之には随分反對が起つたばかりか、その計畫を容れた下岡忠治が知事の時であり實行豫算編制當時は例の有名な森正隆が知事であつた、政黨的に見て其の實現が覺束ないのよ、山形産れの森正隆が郷里の酒田港を競争して船川港を改良することに賛成するかは頗る疑問で、周圍の形勢は甚だ危険であつたが、牧氏は理を盡して改良計畫の要を述べ利を説き、遂にあの頑固な森正隆を動かして計畫豫算に賛成せしめたが、其の熱心さは森知事をして變な考を起さしめた、夫れは餘りに熱心なので政治的偏見を以て氏を觀察したのであつた、後日この真相が判

つて「牧君、僕は君を誤解してゐた、その爲に去年の慰勞金は例年よりも減らしたが今年はその不足額を増加して費與を計算した、僕の不明を許して呉れ」さあの頑固な老知事があやまつたと言ふ逸話もある位に、自分が可いと思つて計畫した事業は周圍の事情を顧るこもなく實行に直進するといふ風な男だ。

東京市に入つても此熱心と努力で東京市路面改良事業を執行したばかりが、附隨的に望んでゐた世人の道路改良熱も相當に高調せしめた、大正十二年度の終りに於て、街路の舗装されたものは九萬坪足らずであつたが、昭和二度末には四十七萬坪の舗装を觀るに至つて、區劃整理地域に屬してゐない重な道路は大體改良され、道路に關する悪評が新聞紙から其の趾を絶つに至つた、是は全く博士努力の賜物であると言つても過言では無い、併し茲に漕ぎ附ける迄には多くの迂餘曲折があつたであらう、市會議員の施行箇所争奪の暗闘もあつたであらう、しかし努力主義の君には純理論一點張りで殆んど夫れには眼を呉れなかつた、

醜議員も一目を置いたやうな感がする。

大正十五年に職制は改正され、道路局を土木局と改むると同時に、道路の外に橋梁下水河港建築の事務までも執行するこゝとなつて、千五百人の俸給者七千人の傭人を統率して年額七千萬圓の豫算を執行するこゝに爲つたが、矢張り努力主義の下に圓滿に執行した、併し是等の事業は何れも博士赴任前に確定した事業を其の筋書き通りに努力主義の下に立派に執行したと言ふに過ぎない、船川築港のやうに牧氏自身に新事業を計畫せしめなかつた、せめて山手方面に於ける未舗装道路の改良事業案でも市會に提出せしめて氏の奮闘努力の程を觀たかつた、定めて本人も其の希望を持つてゐるに違ひない、若し之を市會に提出したら定めて森の二の舞を踏む市議が多かつたであらう、併し醜惡な市議に森正隆のやうな剛直で清廉潔白な士がある筈がないから私達の豫想も亦裏切られたかも判らぬ、

x x x

博士は勉強家だ、船川築港問題で肝膽相照した森正隆が

學博士の學位を得た。

秋田を去つた、後任知事の泰豊助が着任するに早々事由を構へて退官を願出た、「暫く静養して勉強をして見たい」夫れが事由であつた、泰はその願を聴き容れて大正二年牧氏は休職を命ぜられた、牧が休職に爲つたあの氣性では泰は合はないのは當然だ、牧も可い歳になつて少しは前途を考るが可い。こは同僚間の噂に上つたが、休職を爲つた牧氏は妻子を纏めて東京に來た、其の翌月から外國語學校の専科生を爲つて佛蘭西語の勉強に没頭した、今のやうに白髪を被つた頭であつたかぎうかは知らないが、齡四十を越へて二十代の青年と椅子を並べて勉強することは、一寸普通の人間では出來ない藝當だ、秋田がいやになつたら他縣に轉任の運動をやるのが普通だ、此常道を願みないで一學生に甘んじ語學に専念したのは佛蘭西に於ける工學界の大勢を知りたいとの希望を抱いたからであつた、學究の勞は遂に酬ひられて、埼玉縣や秋田縣で體験研究した事實を基礎として「溝渠の断面決定に就て」と題する論文を提出し、工

學位を得たこは同僚やら友人を驚かした、併し夫れは氏が孜孜して勉強した努力の賜に外ならない、論文の内容が發表され價值附けられることに困つて、船川築港以來氏に矚目してゐた沖野技監などは直に内務技師に周施して其の前途を矚目したものだ、佛蘭西雜誌に登載された新研究に就ては、牧博士を自分の部室に呼び寄せて研究を獎勵したと言はれてゐる、こうして沖野技監寵愛の下に精力主義を頼りに愈々勉強を怠らなかつた。

此勉強主義の片鱗は矢張り東京市に入つてからも現はれてゐる、道路維持修繕制度の大改正やら舗装工法の改善、従業員の養成訓練、等々随分新味を見せたが、何と言つてもアスファルト乳劑の改良だ、歐米先進國の製品も餘り適當なものではない何かして之を凌駕するやうな良い製造方法を考へなければならぬこは、局長となつたまきからの計畫だつたそうだ、夫れで試験所員を指揮督勵して遂に其の方法を發見した、今市土木局の名義で特許を出願して

るるそだが、近技術長の話に依れば此乳劑の使用に依つて、東京市に於ける幅員四間未滿の道路は、安價に瀝青化せられ防塵的耐水のものゝ爲る言つてゐる、此一事だけでも氏が東京市に入つて市に與へた重大な永久的利益であらう。

併し勉強を繼續して效果を得る迄努力することは、牧氏一人の克くする所であつて智力體力の異なる萬人に之を求むることは不可能である、氏の風采は野人を想はしめるものがあり其の精力は亦衆に勝れてゐた、然るに氏は部下に對するに自分の精力努力を標準として指揮監督したることだ。内務省時代には災害土木工事の査定に部下を伴れて地方に出張したものだ、仕事の性質からして火急に決定せなければならぬ事件ではあるが、此場合に氏は特有の精力を發揮して二三日晝夜ぶつ通して査定する、隨行した者は勿論査定を受くる府縣の技術官も大抵は斃れると言ふ有様で、牧さんの査定は御免を蒙りたいと言ふ位に地方廳には請けが悪かつた氏は仕事に緊張してゐないから斃れるのだと言ふ

だらうが人間には各々能不能があつて博士の持す特質を標準として人に強ゆるのは無理だ之を頓着なしに人に強要したのは博士の一大缺點で精力主義の濫用でも言へやう。

此癖は東京市に入つた後も隨所に現はれた、設計に杜撰な點を見附けるに近技術長にも隨分酷いことを言つたものだ、時には設計者を自分の部屋に呼び附け、君等は技術家としての能力がない、なき、怒鳴つて相手の方の人格を無視するやうな場合が無いでもない、是等の厄に遭つた連中は時に氏を排斥する方向に合流して行くのだ、曾て氏の退職が屢々新聞紙に傳へられたのも是等の部下が氏を排斥する氣配の現れに外ならない、内務省時代にはライオン技師と言はれ東京市では雷爺と言はれたのも、必ずしも敬稱とは言へない其の半面には氏の缺點を非難する意味が含まれてゐるのだ、固より不備な設計を拵へた者に落度のあることだが、夫れを指摘教示して再び誤を無からしむるのが局長の局長たる所以であるが、惜いことには夫れが出来なかつた。

氏を目して幸運兒と言ふ者もある、河川に關係ある技術に就て學位を得た者が道路技術界の權威者ゝ爲つたのは或は幸運かも知らぬ、併しながら道路法制定當時に内務省に於て其の事務に關係した言ふだけでは、世間は斯界の權威者だゝ迄は相場附けては呉れない、そこに人の知らない苦心の研究が積まれたことを看過してはならぬ、兎に角明治の初年頃から屢々論議されて成立しなかつた道路法が大正八年に制定され路政の一大革命期に遭遇した此革命期に方つて歐米では路上交通用具として自動車の利用が愈々盛んになり我國にも漸次輸入の數を増し一般に實用の機運に向ひつゝ、在つたときで、古い頭では最早間に合はない此新傾向を對照して道路政策を樹立せなければならなかつた、そこで貴衆兩院議員やら關係各省の次官やら局長を議員とする道路會議が設立され、之に道路の配線から改良それから改良に要する財源、改良規格の決定を夫れから夫へ

重要問題が附議された此會議で質問に應答する役目をつこめたのは、現内務省地方局長の佐上信一氏と牧氏の二人であつた、佐上氏は事務を牧氏は技術方面を擔當して隨分奮闘したものだ、理想的技術論を高調すれば、我國情が許さぬ案だと言はれ、姑息な規格を拵へれば軍事當局から不足が出る言つた調子で、甲論乙駁兩氏は随分慮められたものだ、此時ばかりは牧博士の智能と精力を以てしても尙足らなかつた感がある、此苦勞の研究は他の者の追隨を許さない所であつて、牧氏であるから之を克く爲し遂げたのだ、之を想はないで徒に氏を幸運兒視するのは間違ひだ、唯だ強て言ふなら道路政策樹立の機會に夫れの決定に關係する地位に居つたところが、幸運であつたのであらう、併し夫れが當然に氏をして路政界の權威者たらしめたのでは無い。或は東京市土木局長として相當の成績を収めたのも、前任者丹羽追路局長が準備行爲をして置いた爲だとも言はれてゐる、或は夫れも工事を進める上に餘程有力であつたに違ひない。併し夫れが牧土木局長のした事業の總てではない

答だ、皮想の見を以て氏を單に幸運兒と評し去る。こゝには  
贊し難い。

或は收は自己宣傳に妙を得てゐる。と言ふ人もある、成る程道路改良會のやつた東海道改良宣傳旅行のときも、都下の新聞紙は一聲に氏のこゝを書きあげた、次に行つた改良路線選擇調査のときは草鞋脚絆の裝で東海道五十三次を旅したものだ、是等に胚胎して斯く批評するのであらう、私も亦評者と同じやうな考の持主である、併し俺は學者だ、眞の技術家だ普通の人間とは交際しないと言つた調子の昔タイプの技術家でない。こゝだけは事實だ、民衆に超越して技術を弄ぶよりは、寧ろ是に伍して技術の問題を民衆化する。と言ふのが收氏の持する所であつて、羽織袴で内務省に頑張つてゐるやうな技術官肌とは違ふ、こゝが自己宣傳が上手である。と評さるゝ、因であつて、爲に内務省に在つても他の勅任技師と餘り昵懇でなかつたが、併し夫れは自己が社會的に活動しない人々の嫉妬の評言だ。

x  
x  
x

精力家であるから常に學術の研究を怠らなかつた、従つて情性的に仕事はやらない、いつも事物の創設へ創設へ志さした、會て崎玉縣土木課長を勤めてゐた明治三十六年の頃、江戸川筋の八木鄉村附近に鐵筋混凝土の護岸を拵へて斯界の重視を受けた。こゝは有名な話だ、當時のこゝを氏に質して見る。あの時代はまた鐵筋混凝土のこゝは歐米の雜誌に散見する位であつて我國で試みた者がゐない。有様で計畫はしたものの、計算が判らなくなつて隨分頭を捻つたものだ。と言つた、夫れ程に技術の創設に専念したものだ。

道路政策の問題が一先解決して愈々實現期に入らうとしたとき、日本人は人の眞似をするのは至極上手であつて、新式道路の築造工法に就ても歐米の夫れを見習へば可いやうであるが、歐米は氣候風土の違つた我國で他國の工法を眞似るのは考へるものだ、殊に新式道路の築造に經驗のない技術家に眞似をさすのは危險だ、何ぞか日本に適應



する經濟的工法を見附けて歐米が繰返した失敗の跡を日本では踏まないやうにしなければならぬ、之が爲には道路試験所を設けて實際の試験を執行して、地方技術家の適從する所を指摘するのが必要だと言つて、時の土木局長堀田貢氏を説き、或は大藏當局に試験事業の有利な所以を説明するやら東奔西走して遂に試験所——今の土木試験所を創設した、そして先輩やら同僚に失敬して一足先きに勅任官になつて其處の所長を爲つた、いつか勅任官に爲れるならうさ、袖手傍觀た、月日のたつのを待つてゐるやうな男ではない、そこに牧博士の特長を見出すこゝが出来た。

今は眼病の爲めに酒を禁じられてゐるが、昔は随分飲むものだ、東海道旅行の時などは彌次喜多氣分で飲むのだらう、興津の水口屋旅館で歓迎の宴が開かれたとき、餘りメートルを擧げ過ぎて庭園の池に墮落二三日も體が動かなくなつたこゝもある位だ、飲めば大分縣人流の大言壯語もやる、市會議員に一度位は聞かしてやりたかつたが、局長當時は眼病も重くなり歳の勢も加はつて夫れが出来なかつた

のを遺憾に感ずる、併し大言壯語も相手方の如何に依つたらしい、忠次郎茂庭博士が、一夜飲續けて時の土木局長であつた堀田貢氏を煙にまいたり、洋行中スピーインのコートリーの街路で白晝謠曲をやつて歩いたやうな痛快味はない、相手を考へる所に牧博士の細心に如才の無いこゝが表はれてゐる、或は此手で市會議員を丸めたこゝも觀られる。

× × ×

斯くして兎に角相當の仕事をして遂げ、女房役にして京都から引張つて來た近新三郎君を後釜に据へて退職したのは慥かに上出來だ、之で氏が未解決に終つたと言つてゐる土木局長各種設計の統一及工法の經濟化や、四間未滿道路の瀝青化、無塵砂利道の新工法や、未舗装道路の改良方針並に歩道舗装の簡易化や、街路照明計畫案の確定や、愛宕山隧道の開鑿山手方面小道路網の設定等の事業は、近新局長が氏の意圖を繼承して實施するだらう。

持病の眼病も漸次進行して何れ遠からず失明の運命にあ

るので、市政の運用上僕が居ては都合が悪いそうだから退  
 職した迄のこころ、無雜作に言つてゐる。或は氏が常に言  
 つてゐるやうに、官公の職に居るものは進退の時期を誤つ  
てはならぬ、と言ふ信條に捉はれたのかも判らないが、博  
 士今日の立場に於て夫れを許す時ではない、病氣の爲なら  
 致方ないにしても市政の運用上牧局長を排すると言ふのは  
 氏が従來東京市の爲にやつた事業を觀るに餘りに盲目だ、  
 一眼を失つた牧博士に對し双眼を有する市來市長の盲目的  
 態度を憐まざるを得ない、併しそこには前にも言つたやう  
 に東京市の惡習慣、市會議員の人事干渉の魔手が動いてゐ  
 るのであらう、魔手、此爲に東京市政はいつまでも改造さ  
 れないのだ、氣の毒なのは獨り牧博士だけでない東京市民  
 である。

# 出版廣告

## 道路構造調査書 第一編

### 簡易鋪裝道

自動車運輸の嚮達せる刻下の路上交通に於て路面鋪  
 裝の普及は眞に喫緊の事業なりと雖財政上之が實施容  
 易ならず本會調査部幾十回の審査を経爰に簡易鋪裝二  
 法の規準を決定し之を上梓したり方今鋪裝問題の解決  
 上適良の書たりと信ず

頒布實費一冊壹圓八錢（送料不要）着金同時送本

發行所 東京市麴町區大手町内務省内

財團 法人 道路改良會